

すべての人が支え合う “ピアスーパービジョン”を学ぶ

ソーシャルワークにおけるスーパービジョン(以下、SV)とは、「対人援助を行う機関において、スーパーバイザーによって行われる専門家としてのソーシャルワーカー(以下、ワーカー)を養成する過程」です。つまり、専門職の仕事に長けている人(スーパーバイザー)が未熟な人

ワーカーの成長が当事者への 質の高い援助につながる

2月11日(月・祝)、「変わる! 変わる! 変わりたい! 人間関係力」をテーマに「熊本YMCA 2012年度全体職員研修会」を開催。植田寿之さんを講師に迎え、対人援助職場のスーパービジョンについて講演をいただきました。



講師:植田寿之さん (福)京都府社会福祉事業団心身障害者福祉センター(身体障害者療護施設生活指導員)、奈良県心身障害者リハビリテーションセンター(重度身体障害者更生援護施設生活指導員)勤務。その後、同志社大学大学院文学研究科社会福祉学専攻博士課程(前期)に進学。修了後、梅花女子大学現代人間学部講師及び准教授などを経て、現在、フリーで講演、研修講師、執筆などを行う。(社)日本社会福祉士会理事、奈良県社会福祉士会会長などを歴任。

スーパーバイザー、ワーカー)へ支援の実践を行うことです。直接的にはワーカーの成長が目的。間接的にはワーカーが成長することで、機関や施設の利用者など、当事者に対して質の高い援助ができるようになることを目的とします。

SVが必要とされる理由は、3つの機能を備えているからです。第一は当事者と直接関わり、支援する立場にあるワーカーを支える「支援的機能」。対象が人であるため、ワーカーは対人援助の関与形成に独特のストレスを感じがちです。ワーカーは当事者との相性がよくなくても関わりざるを得ません。しかし、ストレスを溜め込み過ぎると職場に出向くことが億劫になってきます。また、上手く付き合えていないと思つて

た当事者から突然無視されるようになることもあり、その理由が分からないことが人を相手とする仕事特有の困難です。その場合、ともに働くスタッフがワーカーを支える必要があるのです。また、対人援助の仕事は組織やチームで行われます。同じ組織内で働くメンバー間の違いがある人々との人間関係もストレスとなります。社会福祉の現場でいうと、看護師や社会福祉士、保育士など、専門性の異なる人です。それぞれに学んだ専門性が異なるため、もの見方や捉え方が異なります。例えば、少し体調が悪い当事者に入浴させるかどうか。医療的には入浴させないという判断がある一方、福祉的には自宅に居る時と同様に入浴させるとい判断となります。

どちらも間違つてはいません。だからこそ、衝突が起こってしまうのです。

管理職と現場スタッフといった立場の違い、同等の立場であっても性格や価値観の違いで摩擦が生じることもあります。様々な違いのある人たちが一緒に仕事をする時の困難が複雑に絡まり合い、ストレスを溜め込むとバーンアウト(燃え尽き症候群)に陥ります。やる気がでない、頭が痛いなど、初期症状は風邪によく似ています。進行すると自覚できるようになり、責任感が強い人ほど症状が強くなります。対人職場では職業病といえるほど、多くの人が陥る症状です。しかし、私生活にも影響を及ぼし、退職にもつながりますから、支えが必要となります。

第二は「教育的機能」です。経験の浅いワーカーが一人前の専門職として育つためには勉強が必要で、しかし、勉強する目的が分からなければモチベーションが高まりません。後輩や新人は、人を支援するための専門知識、理論は知っていますが、実践とつながっていません。目の前の人に共感し、受け止めるため、理論と実践をどのようにつなぐのかを上司が伝えるべきです。

第三は、職場環境を整える「管理的機能」です。社会福祉基礎構造改革以降、機関や施設でサービスの質向上に向けた取り組みが行われるようになっていきます。そこでは、当事者が支払う対価に見合う商品としてのサービス提供に向けた組織運営管理に偏重したものが多くなっています。

厳しい職員管理、職員教育、商品(サービス)管理が行われ、ワーカーには組織の方針に沿ったよい商品を作る組織人としての力量が求められる。しかし本来、ワーカーは当事者に寄り添い、受容、共感して側面から支える役割を担っています。上司の評価を第一に意識するようになると、当事者と向き合うことができなくなり、対人援助は、のびのびと能力を發揮できる環境づくりが大切です。これら3つの機能を重複させたり、使い分けたりすることで、より効果的なSVを行うことができるようになります。

“異なる人”も受け止める
信頼関係を築く

そもそもそのSVは、同じ専門職にある上司による部下の育成、先輩による後輩の育成を目的としています。しかし、日本にはそのようなSVを実践することができず、現場が少なく、上司が自分より経験が浅かったり、違う専門職だったという現実があります。そこで私は、「ピアスーパービジョン」を広めたいと考えています。「ピア」とは仲間、つまりともに働く人たちです。上司も部下も、同僚も、異なる専門職の人もいます。全員が年齢や性別を問わず仲間意識を持って互いの話を聞き、互いを育て合い、支え合うSVです。

SVは、スーパーバイザーとワーカーとの間

THE YOUNG MEN'S CHRISTIAN ASSOCIATION YMCA KUMAMOTO NEWS March 2013 vol.490 3



花岡山を清掃(ボランティアデー)

C O N T E N T S

- ①・② すべての人が支え合うピアスーパービジョン 植田寿之さん講演
- ③ YMCA阿蘇キャンプ60周年記念式典/熊本バンド137周年早天祈祷会/介護福祉士実務者研修科通信制
- ④ 体操フェスティバル・新体操フェスティバル REPORT 危機管理セミナー/企業人と留学生の交流会アガベNo.84「真実に近いもの」
- Life 第55回 スクールソーシャルワーカー社会福祉士 黒田信子さん② Topics ながみねYMCA ゆうゆう倶楽部/むさしYMCA 外貨ファンド/リフレス なんでもやる隊

【中面】 国際協力青少年育成年末募金報告

わたしと聖句



ローマの信徒への手紙 3章23節〜24節
人は皆、罪を犯して神の栄光を受けられなくなつていますが、ただキリスト・イエスによる贖いの業を通して、神の恵みにより無償で義とされるのです。

ことを明らかにしながら、同時に「ただキリスト・イエスによる贖いの業を通して神の恵みにより無償で義とされる」と伝えます。キリストを信じるすべての人が神さまの恵みにより救われることを説くのです。ここに神さまは全く公正で、差別がなく、分け隔てをなさらないことが示されました。人々は常に平等な社会を求めています。でもこの社会はどんなに平等を叫んでも、罪の人間で構成されているかぎり、残念ながら不平等の上に成り立ち差別や偏見で満ちています。いくら頑張つても報われない。たった一度の失敗でもなかなか再起できない。そ

ういう現実の中で生きづらさを感じている人はとても多いのです。人が差別や偏見から解放され真に平等である場所があるとすれば、それは神さまの御前にある時だけです。神さまの御前にすべてを赦され回復される時に、どんなに社会で偏見があつても、顧みられない立場にあつても、なお人は自分自身を取り戻すことができるのです。この聖書の福音は、不平等に満ちた社会において、人に再び立ち上がる勇氣と力を与えます。

日本キリスト教団錦ヶ丘教会
川島 直道

で行われるものですが、ワーカーと当事者の援助関係の中でも同様のことが起こります。これを横の連鎖といいま
す。ワーカーは、スーパーバイザーから支えてもらったように当事者を支えることができるようになります。しかし突き放されて育った場合、ワーカーも当事者を突き放してしまいがちです。また、世代を超えた縦の連鎖もあります。ワーカーが成長してスーパーバイザーとなり、後輩や新人とSV関係となる場合です。横の連鎖と同様に、ワーカーがスーパーバイザーとなって新人と関係をつくる時、自分がスーパーバイザーから育てられたように新人を育てます。ですから最初のスーパーバイザーとワーカーとの関係は、すべての対人関係の出発点になるといえるでしょう。

スーパーバイザーとワーカーとの信頼関係が深まると同時に、様々な現象が生じます。対人関係の中では両者の個人的な感情が常に行き来しています。ワーカーがスーパーバイザーに抱く個人的な感情を「転移」といい、スーパーバイザーがワーカーに抱く感情を「逆転移」といいます。陽性の転移・逆転移は好意的に思う気持ちです。しかし、その気持ちが吟味されないままの状態が続くと、ワーカーがスーパーバイザーに対して困難な要求をする場合があります。スーパーバイザーが過剰に関わって「依存と甘やかし」の関係が高じると、スーパーバイザーがワーカーの潜在的な力を信じてあげることができなくなり、ワーカーに必要な以上の関わり(自我肥大)をするようになります。結果的にワーカーの力を弱めることがあります。陰性の場合、否定的な感情からSV関係が苦痛になり、バーンアウトの

原因になりかねません。人と人との関係である以上、感情移入は必要不可欠です。しかし、抱いた感情は吟味し、意識化させる必要があります。

SV関係を形成する際に有効となるのは、人間のパーソナリティについて理解しておくことです。パーソナリティとは人格、性格、個性。広く捉えれば心です。フロイトが体系化した精神分析学では、パーソナリティは3つの領域で構成されています。一つは「イド」で、人間が生まれ持っている本能や欲求といった心的エネルギーです。次が「超自我」。育つ過程で「イド」を押さえるように身に付けていく社会的なルール、秩序、道徳などです。そして「自我」です。人間はイドと超自我を同時に行うことができないため、心に葛藤が生まれ、不安を感じるようになります。

イドと超自我の調整を行い、バランスを取ろうとする心の領域が自我です。人格の中心は自我であり、段階を追って発達していくものですが、何らかの事情で発達が遅れたり、一時的に機能不全に陥ったりすることがあります。自我が正常に機能していれば防衛機制が働き、何らかの形で直面した困難を克服することができず、防衛機制が機能しないときは支援が必要になります。これは、人の気持ちを推測する時に役立つ理論です。推測したら相手に尋ねてみます。聞かれた相手は気持ちよく教えてくれ、安心できる関係を築くことができるようになります。SV関係では、気兼ねなく話せる関係を築き、その中で受け止めてもらい、相手を受け止めることが大切です。そこから、当事者や他のワーカーをしつかりと受け止めていくことができるようになるでしょう。

阿蘇キャンプ60周年記念式典を開催

晴天に恵まれた2月16日(土)、YMCA阿蘇キャンプの60周年を祝う記念式典を開催しました。

阿蘇YMCAメインホールに運営委員、ワイズメンズクラブ、地域の方々、キャンプリーダーOB・OG、ユースリーダー、元職員など130名が集う



中、尾ヶ石保育園の園児たちによる虎舞で幕を開けました。開会礼拝は、大津キリスト教会の米村牧師に「人生の土台」と題して、奨励をいただき、式典では、熊本YMCA会長の吉本貞一郎さんから祝辞をいただきました。その後、長年にわたり活動を支えてきた6名の方々に感謝状を贈呈。記念コンサートでは、阿蘇を中心に活動するフォークコーラスグループ「あそBe隊楽団」が音楽を通して九州北部豪雨災害復興のメッセージを伝えました。

阿蘇YMCA 櫻間博継

熊本バンドの青年たちを偲ぶ

早天祈禱会を開催

明治の初期、熊本洋学校で学び、キリスト教の教えを広めようと誓った青年たち。後に熊本バンドと呼ばれた彼らを偲ぶ熊本バンド早天祈禱会を1月30日(水)に開催しました。早朝の花岡山に集まったのはキリスト教会、キリスト教高校、同志社大学、熊本YMCAなどの関係者約300名。1876年、青年たちが誓いを立て署名した奉教趣意書の原文を熊本大学YMCA花陵会のコモン真樹さんが、同口語訳をルーテル学院高校の角本茜さんが朗読しました。続いて、熊本大学名誉教授の岩井善太さんが「奉教の志」と題して奨励。キリスト教の信仰に基づき、困難を乗り越えた青



年たちの生涯にふれ、彼らの多くが生涯を通じて示した、両親を敬愛し、勉学に励み、そしてキリスト教に基づく愛と正義と平等を基本として、日本と世界のために貢献しようとした生き方は、137年の時を隔てた今でも、我々にとつて人生を送るうえで何が基本であるかを指し示していると思えます」と締めくくりました。

職員 熊本哲朗

介護福祉士実務者研修科通信制 4月開講予定

これまで東部YMCA生涯学習課では、再就職を目指す方や介護現場等で働きながら介護福祉士を目指す方々のお手伝いをしてきました。働きながらキャリアアップを目指している人たちに応援するため、無理なく勉強できるように、通信教育を主とした「介護福祉実務者研修科(通信制)」を2013年4月に、熊本県内で初めて開講します。2016年度(2017年1月の国家試験)より介護福祉士国家試験の仕組みが変わります。介護福祉士養成施設卒業者に国家試験が必須化され、介護業務など3年の実務経験者は、介護福祉士実務者研修を修了しなければ、国家試験の受験ができません。2014年度以降、介護福祉士実務者研修の受講希望者は急増することが予想されます。「介護過程Ⅲ」や「医療的ケア」等の科目があり、総授業時間数は450時間です。ただし、ホームヘルパー2級や介護職員基礎研修など、取得している資格により、授業時間の短縮が認められます。詳しくは東部YMCA生涯学習課(096-1382-6661)までお問い合わせください。



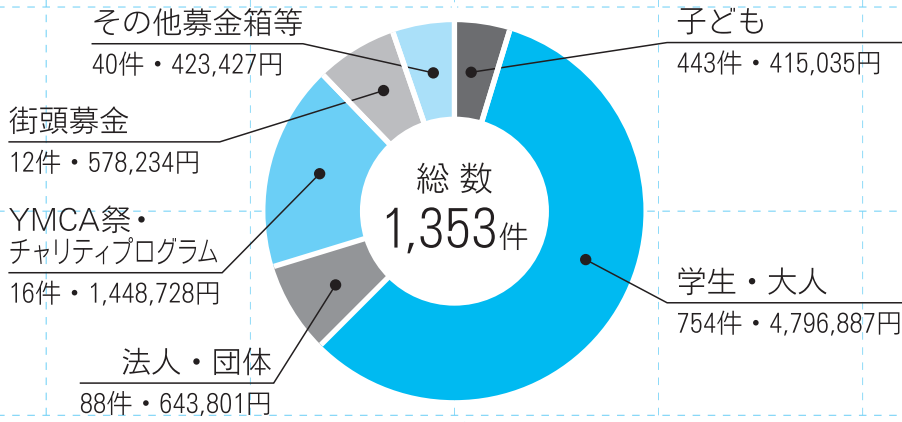
すべての人々が共に生きる平和な世界を願って

国際協力 青少年育成 年末募金



たくさんのご協力ありがとうございました。

募金総額 8,306,112円



国際協力活動のために



テント生活を送るアフガニスタン難民(パキスタン)



東ティモールの子どもたちと(サッカー指導者派遣)

子ども・青少年の育成のために



タイ・ユース・ワークキャンプにユースボランティアが参加

集まった募金は、国際協力や青少年の育成、災害支援などのために役立てられます。

※写真はイメージで実際の支援活動とは必ずしも一致しないものもあります。

障がい者の自立支援のために



就労継続支援A型事業所ウエルビー

東日本大震災復興支援 YMCA学院生を派遣

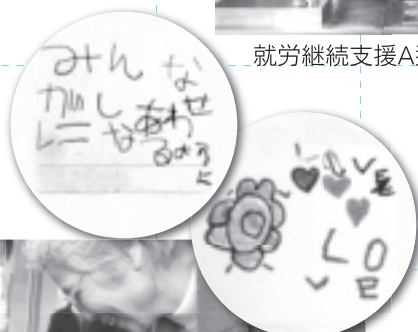


九州北部豪雨・被災児童招待キャンプ

災害復興支援のために

2012.11.1~2013.2.16

年末街頭募金



募金拠出先		金額(円)
国際協力活動	日本YMCA同盟 国際協力募金	600,000
	北部タイ山岳少数民族の子どもたちの支援	500,000
	青少年国際交流プログラム支援	500,000
子ども・青少年育成	ボランティアリーダー育成・派遣	1,200,000
	障がい児キャンプ(ポニーキャンプ)	300,000
	参加費減免制度	1,864,092
	熊本YMCA学園奨学金制度	1,200,000
障がい者自立支援	就労継続支援A型事業所の支援	500,000
草の根活動支援	国内外の草の根活動の支援	600,000
	災害復興支援	東日本大震災救援・復興募金 九州北部豪雨災害支援
諸経費	啓発・管理費等	177,928
総額		8,306,112

アガへ No.84

総主事 堤 弘雄

真実に近いもの

私は先日、熊本市内の眼科で緑内障の手術を受けるために5日間入院しました。

手術は入院初日の午後2時に昼食抜きで行われました。手術が終わり病室のベッドに戻った頃にはお腹がペコペコで6時の夕食が待ち遠しくてたまりませんでした。そして、いよいよ夕食の時、配膳担当のご高齢の女性の方が運んで来られたのが“おじや”お茶碗1杯と梅干1個だけの術後食でした。そして、配膳の後、彼女は私の大きな体を見て、「お腹が空いたでしょう。足りないでしょう。」と言っておじやをもう1杯持ってきてくださいました。正直「助かった!」と喜びながら美味しくいただきました。何よりも彼女の優しい気持ちが嬉しくて、豊かな気持ちになれました。

その夜、私はなぜか星野富弘さんの次の詩を思い出しました。

よるこびが集まったよりも
悲しみが集まった方が
しあわせに近いような気がする

強いものが集まったよりも
弱いものが集まった方が
真実に近いような気がする

しあわせが集まったよりも
ふしあわせが集まった方が
愛に近いような気がする

もしかしたら、私たち人間は何の問題や悩みもなく生きている時よりも、悲しい時、心が弱められている時の方が、人間同士の本当の優しさや愛情を感じ、確かめ合うことができるのかもしれない。また、私たちは忙しすぎて、お互いを見つめ合う時間や、お互いに微笑み合う時間さえも失っているように思います。

神様は弱いところに強く働きかけ宿られると学んだことがあります。星野富弘さんは、悲しい時、弱められた時、不幸せな時にこそ神が共にいてくださる喜びを感じておられるのではないのでしょうか。



Y M C A

22nd

26th

中央YMCA体育館 2月3日(日) 体操フェスティバル 新体操フェスティバル 2月10日(日) 熊本県立総合体育館 大体育室

Y M C Aのクラスに通う子どもたちが、日頃の練習の成果を発表する体操フェスティバルと新体操フェスティバル。今年はそれぞれ170名が参加し、多くの観客に見守られながら、のびのびと演技を披露しました。



ICR 中川まゆみ

留学生が企業人と会話練習体験

日本語を学ぶ留学生に企業の人たちと接する機会を持ってもらおうと、毎年開催している交流会。今年には日本語会話練習ボランティアを実施し、YMCAフイランソロピー協会の10名とYMCA学院日本語科初級クラスに通う留学生9名が参加しました。ペアになって自己紹介シートなどを使いながら、趣味、文化、生活習慣の違い、将来の夢など様々な話題で盛り上がり、最後に全員で茶話会を行いました。企業人からは「この会だけでなく、企業として留学生を応援していきたい」などの感想が聞かれました。



YMCA学院 神保勝己

危機管理を学ぶ 生涯学習セミナーを開催

（株）グローバル・ビジョン代表で熊本県知事公室政策参与の吉村郁也さんを招き、危機管理をテーマにセミナーを開催しました。イラン・イラク戦争、海外における邦人拉致・殺害事件など30年に渡る経験談の他、「九州北部豪雨のような災害はどこでも起こり得る。最悪を想定すること、ハザードマップを確認することが必要」などのアドバイスが語られました。講演後は吉村さんを囲んで茶話会を実施。参加者は世界で起きている事件を身近に感じました。

Life

第55回

「いのち」「生活」「いきがい」をテーマにしたメッセージ。



熊本県立湧心館高等学校
熊本県上益城郡教育事務所
スクールソーシャルワーカー
社会福祉士

黒田 信子さん ②

複雑・多様化した子どもたちを取り巻く環境 課題をみつめ、早めの支援を

子どもたちの症状(問題行動)には、複雑化した家庭環境や価値観の多様化が大きく影響していると感じます。父子・母子家庭、両親が互いに再婚した家庭、子どもより自らの生き甲斐を優先する親…。家庭の形は様々ですが、相談を受ける中でも、家庭内のひずみが顕在化している問題は多いようです。

例えば、不登校の原因が学校でのいじめなどではなく、父母間、母・姑間の不仲だったというケースがありました。子どもは家庭環境を選べません。しかし、このケースではその後、子どもは自身の成長を経て気持ちを整理し、状況を受け入れることで、再び登校できるようになりました。

子どもにとって、生活の中心である家庭は大変重要です。保護者側が経済的不安、精神的疾患、DVなどの問題を抱えている場合も、子どもは精神的な影響を強く受けます。時代が変わり、以前に比べると周囲に相談できる人も少なくなっていますが、相談窓口を利用するなど、問題を解消できる方法をできるだけ早い段階で見つけてほしいと思います。私は、成長期の子どもを見守り、支えるには、まず家庭が元気で明るいことが大切だと考えています。

阿蘇キャンプ開設60周年記念 YMCA会員交流会 ワクワクワークデイキャンプ

阿蘇キャンプが1952年8月2日の開設以来、今年度で60周年を迎えたことを記念して、会員交流会「ワクワクワークデイキャンプ」を開催します。ぜひご参加ください。

内容: キャンプ場クリーン作戦(美化活動)、ブルーベリー植林活動、バーベキュー、レクリエーションゲームなど

日程: 2013年3月20日(水・祝)
現地集合・解散の方 10:00集合
送迎バス(中央YMCA出発)利用の方 8:30集合

場所: 阿蘇YMCA

対象: YMCA会員・家族

参加費: 大人1,000円/小人500円
バス利用の場合、別途一人500円

※雨天の場合は中止



お問合せ | 熊本YMCA ICR TEL 096-353-6397 FAX 096-324-7877
お申込み | E-mail icr@kumamoto-ymca.org

TOPICS 地域YMCAにまつわる人・モノ・場所などを順番にご紹介します。

ゆうゆう倶楽部

ながみね



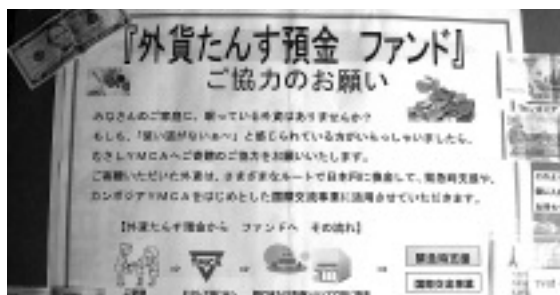
「運動を始めてみたいけど少し不安」「仲間と楽しく運動したい」そんな方にお勧めなのが、「ゆうゆう倶楽部」です。スタジオとプールでのグループレッスンが中心。毎週水曜日の午前中に活動し、屋外でのウォーキングなども楽しく行っています。運動だけにとどまらず、1月7日(月)には、ゆうゆう倶楽部の皆さんが作った七草粥を来館者にふるまいました。

ゆうゆう倶楽部で仲間も増えて、いつも笑顔満開です!

ながみねファミリー YMCA 藤本博人

外貨ファンド

むさし



海外旅行から帰国すると、お財布に外貨が残っていることが多いと思います。そのような外貨がご自宅のたんすの中に眠っていませんか。「使い道がない」と感じている方は、むさしYMCAの「外貨たんす預金ファンド」へ寄贈をお願いします。

寄贈された外貨は様々なルートで日本円に換金して、地域の緊急時支援や、むさしYMCAが進めているカンボジアYMCAとの国際交流支援事業などに活用します。ご協力をお願いします。

むさしYMCA 大宅登貴子

なんでもやる隊

リフレス



2月16日(土)から17日(日)にかけて、今年度最後の活動を行った「なんでもやる隊」。小学4年生から6年生の20名が、1年を通して楽しく活動に参加しました。

カヌーや餅つきなど、季節に応じた様々な体験を共にしたことで、メンバー同士とても仲良くなりました。また、田植えや稲刈りを通して食の大切さを学びました。

今回の活動でお別れとなりましたが、また元気な姿でリフレスに遊びに来てくれることを楽しみにしています。

リフレスおおむた 中島祐志

Kumamoto YMCA Network

中央YMCA	☎096-353-6391	ながみねファミリー YMCA	☎096-385-0676
YMCA学院	☎096-353-6393	むさしYMCA	☎096-248-6334
YMCA学院高等学校	☎096-353-6391	水前寺幼稚園	☎096-362-4141
若者サポートステーション	☎096-353-6393	阿蘇YMCA	☎0967-35-0124
A型事業所WELL-B	☎096-312-1333	赤水保育園	☎0967-35-0024
本部事務局・ICR	☎096-353-6397	尾ヶ石保育園	☎0967-32-0213
みなみYMCA	☎096-378-9370	永草保育園	☎0967-32-0810
上通YMCA	☎096-352-2344	黒川保育園	☎0967-34-0402
東部YMCA	☎096-382-6661	リフレスおおむた	☎0944-58-7777



思いやり 誠実さ 責任感 尊敬心 キャラクター・ディベロップメント 推進中

今、黒川保育園ではサッカーが大人気。いつも「先生、サッカーしよう!」と誘われます。サッカーが大好きな年長のT君は、園児たちがチームに分かれて行う試合で毎回大活躍。コーンなどの片付けも積極的に頑張ってくれます。試合に勝つことが多く、いつも嬉しさいっぱいで片付けをしていたのですが、ある日チームが負けてしまいました。残念そうなT君でしたが、試合の後には、いつものように一番に片付け開始。気持ちが落ち込んでいるときにも責任感の強いお友だちです。(黒川 岡山富士男)



【基本聖句】喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい(ローマの信徒への手紙12章15節)

熊本YMCAの使命

共に生きる社会
ウェルネス活動

地球環境の保全
ボランティア活動

生涯学習の推進
平和な世界

■ホームページ www.kumamoto-ymca.or.jp

■メールマガジン登録

www.kumamoto-ymca.or.jp/cgi-bin/mail/mail.cgi

